

2021 年 8 月 29 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒8 番（旧 2 番）

『御旨のままに』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 2:8~10 節

『事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。』

礼拝讃美歌⇒134 番（旧 194 番）

『ああ主は誰がため』

聖書⇒ヨハネによる福音書 14:27 節

『わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。』

平和＝平安＝シャローム

礼拝讃美歌⇒355 番（旧 304 番）

『主はいのちを』

《パン裂き》

聖書⇒ヨハネによる福音書 6:53~55 節

『イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。』

礼拝讃美歌⇒148 番（旧なし）

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒創世記 41:53~57 節

『エジプトの国に七年間の大豊作が終わると、ヨセフが言ったとおり、七年の飢饉が始まった。その飢饉はすべての国々を襲ったが、エジプトには、全国どこにでも食物があった。やがて、エジプト全国にも飢饉が広がり、民がファラオに食物を叫び求めた。ファラオはすべてのエジプト人に、「ヨセフのもとに行って、ヨセフの言うとおりにせよ」と命じた。飢饉は世界各地に及んだ。ヨセフはすべての穀倉を開いてエジプト人に穀物を売ったが、エジプトの国の飢饉は激しくなっていた。また、世界各地の人々も、穀物買いにエジプトのヨセフのもとにやって来るようになった。世界各地の飢饉も激しくなったからである。』

聖書⇒創世記 42:1~9a 節

『ヤコブは、エジプトに穀物があると知って、息子たちに、「どうしてお前たちは顔を見合わせてばかりいるのだ」と言い、更に、「聞くところでは、エジプトには穀物があるというではないか。エジプトへ下って行って穀物を買ってきなさい。そうすれば、我々は死なずに生き延びることができるではないか」と言った。そこでヨセフの十人の兄たちは、エジプトから穀物を買うために下って行った。ヤコブはヨセフの弟ベニヤミンを兄たちに同行させなかった。何か不幸なことが彼の身に起こるといけないと思ったからであった。イスラエルの息子たちは、他の人々に混じって穀物買いに出かけた。カナン地方にも飢饉が襲っていたからである。ところで、ヨセフはエジプトの司政者として、国民に穀物を販売する監督をしていた。ヨセフの兄たちは来て、地面にひれ伏し、ヨセフを拝した。ヨセフは一目で兄たちだと気づいたが、そしらぬ振りをして厳しい口調で、「お前たちは、どこからやって来たのか」と問いかけた。彼らは答えた。「食糧を買うために、カナン地方からやって参りました。」ヨセフは兄たちだと気づいていたが、兄たちはヨセフとは気づかなかった。ヨセフは、そのとき、かつて兄たちについて見た夢を思い起こした。』

聖書⇒創世記 41:51 節

『ヨセフは長男をマナセ（忘れさせる）と名付けて言った。「神が、わたしの苦労と父の家のことをすべて忘れさせてくださった。」』

聖書⇒創世記 42:9b~10 節

『ヨセフは彼らに言った。「お前たちは回し者だ。この国の手薄な所を探りに来たにちがいない。」彼らは答えた。「いいえ、御主君様。僕どもは食糧を買いに来ただけでございます。』

聖書⇒創世記 42:17~24 節

『ヨセフは、こうして彼らを三日間、牢獄に監禁しておいた。三日目になって、ヨセフは彼らに言った。「こうすれば、お前たちの命を助けてやろう。わたしは神を畏れる者だ。お前たちが本当に正直な人間だというのなら、兄弟のうち一人だけを牢獄に監禁するから、ほかの者は皆、飢えているお前たちの家族のために穀物を持って帰り、末の弟をここへ連れて来い。そうして、お前たちの言い分が確かめられたら、殺されはしない。」彼らは同意して、互いに言った。「ああ、我々は弟のことで罰を受けているの

だ。弟が我々に助けを求めたとき、あれほどの苦しみを見ながら、耳を貸そうとしなかった。それで、この苦しみが我々にふりかかった。」すると、ルベンが答えた。「あのときわたしは、『あの子に悪いことをするな』と言ったではないか。お前たちは耳を貸そうとしなかった。だから、あの子の血の報いを受けるのだ。」彼らはヨセフが聞いているのを知らなかった。ヨセフと兄弟たちの間に、通訳がいたからである。ヨセフは彼らから遠ざかって泣いた。』

聖書⇒創世記 44:18~20 節

『ユダはヨセフの前に進み出て言った。「ああ、御主君様。何とぞお怒りにならず、僕の申し上げますことに耳を傾けてください。あなたはファラオに等しいお方でいらっしゃいますから。御主君は僕どもに向かって、『父や兄弟がいるのか』とお尋ねになりましたが、そのとき、御主君に、『年とった父と、それに父の年寄り子である末の弟がおります。その兄は亡くなり、同じ母の子で残っているのはその子だけです。父は彼をかわいがっております』と申し上げました。』

聖書⇒創世記 45:01 節

『ヨセフは、そばで仕えている者の前で、もはや平静を装っていることができなくなり、「みんな、ここから出て行ってくれ」と叫んだ。だれもそばにいなくなってから、ヨセフは兄弟たちに自分の身を明かした。』

聖書⇒マタイによる福音書 10:29 節

『二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。』

礼拝讃美歌⇒305 番（旧なし）

『岩なるイエスは』

《建徳要旨》

「22年を経て～摂理の神～」

創世記 41 章 53 節～42 章 9 節:飢饉は自然災害で、私たちが直面しているコロナ禍との関連について。
再会：飢饉のため人々はエジプトへと穀物を買出しに上る。もし飢饉が起らなかったら、ヨセフの兄たちはエジプトへは行かなかったし、ヨセフも兄たちと再会するとは思ってもいなかったはず。22年を経て、ヨセフは10人の兄たちと再会。ヨセフは兄たちに気づくが、兄たちは全く気づかない。そして、ヨセフの前に平伏す兄たち。17歳の時に見た夢が思い出された。兄たちはその夢を無いものにしようと考え、生意気な弟をエジプトに売った。それから誰もその夢のことなど忘れたとしても、神はお忘れにならない。この時、ヨセフは39歳。エジプト語を話し、通訳が間に居たので、まさかヨセフ

だとは思ひもしない。スパイの疑いをかけられ、3日間牢獄に監禁させられた兄たちは、ヨセフの前で互いに言った。それによってヨセフは兄たちの心の中を知ります。兄たちは加害者として罪の意識を持ち続けていたことが分かります。ヨセフがすぐに名乗りを挙げなかったのは、兄たちが以前とは変わったか否かを知るため。42：15、16 **試す**は復讐でも意地悪でもない。兄たちの本心を試す試練それがヨセフによって与えられます。その都度、以前の兄たちとは違った対応をヨセフは見ます。最後の決め手は、44章に於けるユダの執り成し。全力で弟ベニヤミンと父ヤコブを守ろうとしている。それを聞いて、ついにヨセフは身を明かします。45章1～3節。

摂理=予め+配慮する、人間の思いを超えた遠大な配慮。ルツ2章3節：生活に困窮したルツが落ち穂拾いに出かけた畑が図らずもボアズの畑だったのは、偶然ではない。すべては神の摂理の手の働き。ヨセフ物語は、この摂理を表現している。**マタイ10章29節**：数にも足りない一羽の雀をさえ、神は摂理の手で守られる。